

## 令和5年度野木町コミュニティ・スクール協議会 まとめ

### 1 野木町コミュニティ・スクール協議会の目的

町内全小・中学校の学校運営協議会長及び校長が学校運営協議会の運営や地域や家庭との連携の取組等の情報交換を行うことにより、小中連携の強化につなげる。

### 2 日程

#### ○第1回コミュニティ・スクール中学校区協議会

- ・野木中学区 令和5年7月25日(火) 13:30～(野木中 特別活動室)
- ・野木二中学区 令和5年7月19日(水) 13:30～(野木二中 第二会議室)

(内容) 各校の学校運営協議会の運営や学校と地域、家庭との連携活動計画及び中学校区のテーマと学校経営計画等との関連についての情報交換

(参加者) 各校の学校運営協議会長及び校長  
教育委員会

各校の活動計画及び各中学校区で目指す児童生徒像の共通テーマ(野木中学区「響き合う心」、野木二中学区「夢」)についての学校経営計画等への位置づけについて情報交換を行った。

#### ○第2回コミュニティ・スクール中学校区協議会

- ・全小中学校区 令和6年1月19日(金) 10:00～(町公民館)

(内容) ・各校の学校と地域・家庭、幼保小中間の連携(中学校区のテーマに関わる活動等)についての活動報告及び成果と課題

- ・講話「地域とともにある学校づくりにおける学校運営協議会の役割と熟議」

下都賀教育事務所 築島淳 副主幹

(参加者) 各校の学校運営協議会長及び校長  
町教育委員会

各校の活動報告及び幼保小中の連携、中学校区のテーマに関わる活動等について情報共有を行った。また、講話演習では学校運営協議会の役割の再確認及び模擬熟議を行うことで次年度の学校運営協議会実施の参考とすることができた。

### 3 地域、家庭との連携事例

新型コロナウイルス感染やインフルエンザ感染予防対策を行いつつ、地域連携の4つの視点(栃木県教育委員会)に合わせ、以下のような実践がおこなわれた。

①地域の人材を生かす

・学習支援



読み聞かせ



気球体験



キャリア教育講話



ミシン指導



お囃子教室



職場体験学習

・環境支援



教材園耕運



生け花展示





白衣修繕



PTA 側溝掃除



図書室環境整備



赤羽みちえさんによる友小の歴史イラスト掲示

②地域の資源を生かす



田植え稲刈り体験



各種団体の作品掲示



登下校の見守り



杏林製薬による服薬教室



体験活動



警察署による不審者対応研修



煉瓦窯見学



学区内探検



社会福祉協議会による体験学習



消防分署による救命救急法の学習

### ③学校の力を生かす

- ・学校の教育力を生かした活動



家庭教育学級



保育園との交流

- ・学校施設を生かした活動と交流



食農教育



チューリップ球根植え



七歳合同祝い



地域コミュニティ運動会



どんど焼き

④地域へ参画する

・地域でのボランティア活動等



参道落ち葉掃き



ふれあい班ウォークラリー



新橋まつり



直売所でのミニトマト販売



町ふれあい夏祭りイブニングコンサート

・近隣・地域団体との連携



小規模特認校推進会議



租税教室

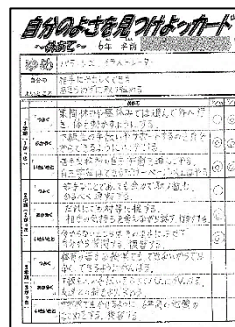


野木神社神楽「五行の舞」参加

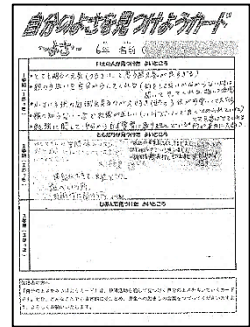
4 中学校区のテーマに関わる活動事例



小、中学校オンライン共有授業



自分のよさを見つけようカード



小中合同あいさつ運動



合同サイエンスショー

## 5 成果と課題

### 成果

- ・新型コロナウイルス感染及びインフルエンザ感染予防対策を行い、地域と連携をとりながら活動を行うことができた。地域コーディネーターの呼びかけ等により、学習支援、環境整備等において地域の方々に多くの支援をしていただくことができた。支援の幅も多様に広がり、必要に応じた支援をいただきありがたい。
- ・地域、家庭と連携した様々な活動や会議、感謝の会等により、地域の方同士のつながりが生まれた。コロナ禍により継続が難しいと思われた事業も学びや体験活動の改善に向け学校運営協議会で相談し活動が行われている。
- ・各中学校区で設定した育成を目指す子ども像についての取組について共通理解を行い、学校経営に生かしている。学区内の小中学校での交流活動が行われた。
- ・講話により学校運営協議会の役割について再確認ができた。
- ・分館と連携し、地域との連携する組織づくりが進んでいる。
- ・小規模特認校推進会議を開催し、地域と連携する体制づくりが進んでいる。お囃子教室など地域を生かした活動につながっている。

### 課題

- ・ボランティアの高齢化が進んでいる。募集方法を工夫し若い協力者を広く求めたい。
- ・学校と地域ボランティアとの窓口となっただけの方々に地域コーディネーターの選出が必要である